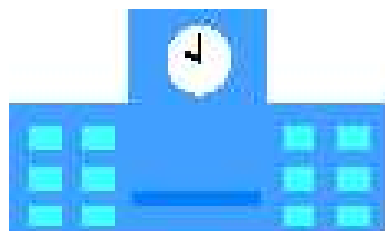


主語

「**花が**さきます。」という文の、「花が」がもしなかったら、「何がさくのか」ということがわからず、意味のはっきりしない文になってしまいます。この「花が」のように、文の中で「**何が（は）、だれが（は）**」にあたる言葉が**主語**です。

話し言葉の中では、主語が省かれることもあるので、注意しましょう。

- ぼくは学校へ行く。…主語は「**ぼくは**」
- 「学校へ行こう。」…主語が省かれている。



述語

主語の動作、様子、名前などを言い表すのが^{じゅつご}述語です。

^{じゅつご}述語がないと、文の意味がはっきりしなくなってしまうです。

- わたしは毎日犬と^{さんぽ}する。 「どうする」
- 今年の夏は特別に^暑かった。 「どんなだ」
- おじの家のあたりはとてもし^ずかだ。 「どんなだ」
- ほとけさまにおだんごを^{おそなえ}する。 「どうする」
- あれがぼくの^妹だ。 「何だ」

話し言葉では、^{じゅつご}述語が省かれることもあります。

- ぼくは行くが、きみは。「どうする」などの^{じゅつご}述語を^{しょうりやく}省略
- ああ、^{ふじさん}富士山が……。 「見える」「美しい」の^{じゅつご}述語を省略

主語と述語の関係

主語と述語の関係を考えましょう。

ぼくは五年生です。



主語が何であることを説明しています。

父は銀行員です。
(何は) (何だ)

火山のよう岩はまっかだ。
(何は) (どんなだ)



主語のようすがどんなであることを説明しています。

わたしはかぜで学校を休みました。



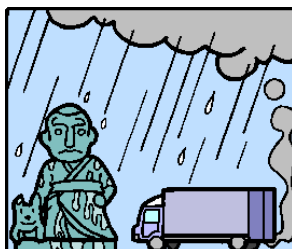
主語の動作を説明しています。

父は毎日車で会社に行きます。
(何は) (どうする)

修しよく語①

他の言葉の意味をくわしく説明する働きをするものを
修しよく語（かざりことば）といいます。

- まっ黒な 雨雲が 空 いっぱいに 広がっている。



主語「雨雲が」をくわしく説明しています。

- きれいな 声で 上手に 歌う。



述語「歌う」をくわしく説明しています。

修しよく語②

「どんな」「どれほど」「どこに」などにあたる言葉が修しよく語です。修しよく語が、どの言葉を修しよくし、どのようなことを表しているか、考えましょう。

- 妹は**ひどく**
(どれほど) 高いねつをだした。



- わたしの **たいせつな**
(どんな) 人形を こわしたのはだれ。



- やさしい**
(どんな) 母はおこったことがない。



- ぼくはテレビが見たくて **急いで**
(どれほど) 帰った。



- チューリップが花だんに **いっぱい**
(どれほど) さいている。



主語、述語、修しよく語の区別

基本的な文は、主語、述語、修しよく語でできています。
それぞれの言葉が、主語か、述語か、修しよく語かを見分けられるようにしましょう。

1	主語	<u>おだやかな</u>	<u>春の</u>	<u>光が</u>	<u>教室に</u>	<u>さしこんでいる。</u>
2	述語	3	3	1	3	2
3	修しよく語	<u>やさしい</u>	<u>人も</u>	<u>時には</u>	<u>おこります。</u>	
		3	1	3	2	
		<u>朝の</u>	<u>つめたい</u>	<u>空気を</u>	<u>むねいっぱい</u>	<u>すいこんだ。</u>
		3	3	3	3	2
		<u>さわやかな</u>	<u>えがおで</u>	<u>あの</u>	<u>人は</u>	<u>去っていった。</u>
		3	3	3	1	2

並立の関係

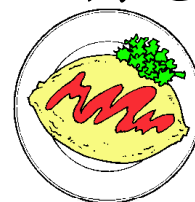
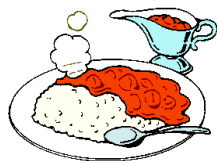
二つ以上の言葉が、対等の関係で並んでいるとき、それらの言葉を並立語（^{へいりつ}ご）といい、それらの言葉の関係を^{へいりつ}並立の関係といいます。

- きのうも 今日も 国語の勉強を した。

^{へいりつ}並立の関係



- ぼくは カレーライスと オムレツが 好きです。



^{へいりつ}並立の関係

- 夏には、 動物も、植物も、 こん虫も 活発に活動します。

^{へいりつ}並立の関係

補助の関係

前の言葉にくっついて、ちょっとした意味をそえる働きをする言葉を^{ほ じよ}補助語（ほじょご）といい、前の言葉と補助語の関係を^{ほ じよ}補助の関係といいます。



・ 兄は 勉強を して いる。^{ほ じよ}
補助の関係



・ 夕食を 作って おく。^{ほ じよ}
補助の関係



・ これから がんばって いく。^{ほ じよ}
補助の関係

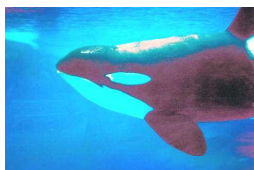
独立語

文の中で、主語にも述語にも修しよく語にもならず、他の言葉と直接結びつかない言葉を独立語（どくりつご）といいます。

独立語になるものには、「よびかけ」「感動」「あいさつ」などがあります。



- 「ねえ、君が山田君ですか。」（よびかけ）



- 「うわっ、大きな魚だね。」（感動）

- 「こんにちは。きょうも暑いですね。」（あいさつ）

単文・複文・重文①

文は、主語・述語の関係によって、**単文**、**複文**、**重文**の三種類に分けられます。

★ **単文** 一つの文の中に、**主語・述語**の関係が一回しかない。

・ 雨が ふる。 ・ まっ白な鳥が 飛んでいる。
 (主語) (述語) (主語) (述語)

★ **複文** 一つの文の中で、主語・述語の関係が成り立っているうえに、**主語または述語の中にさらに主語・述語をふくんでいる。**

・ 雨が ふる日は ゆううつだ。

(主語) (述語)
 (主語)

(述語)



★ **重文** 一つの文の中に、**主語・述語**の関係が二回以上ならんでいる。

・ 雨も ふるし、 風も ふく。
 (主語) (述語) (主語) (述語)

単文・複文・重文②

単文、複文、重文を区別できるようにしましょう。

- ・ 北国では、春の来るのがおそい。

複文



- ・ なまけ者は失敗し、努力家は成功する。

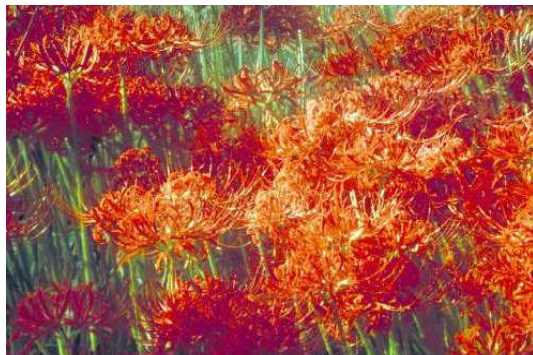
重文

(主語) (述語) (主語) (述語)

- ・ 赤い花がいちめんに さいている。

単文

(主語) (述語)



命令する文・たずねる文・感動を表す文①

文は、終わりの言葉によって意味が変わります。文の終わりがたを見て、どんなことを表す文なのか、考えましょう。

★**命令する文**…人に**命令**（—しなさい）したり、**禁止**（—するな）したり、**たのんだり**（—してください）する意味を表す文。

・これを読みなさい。　・君は行くな。

★**たずねる文**…**ぎ問**や**質問**を表す文。文の終わりに「か」がつくことが多い。

・これはおいしいですか。・君も行くのか。

★**感動を表す文**…**おどろき**や**感動**を表す文。文のはじめや終わりに感動の言葉がつく。

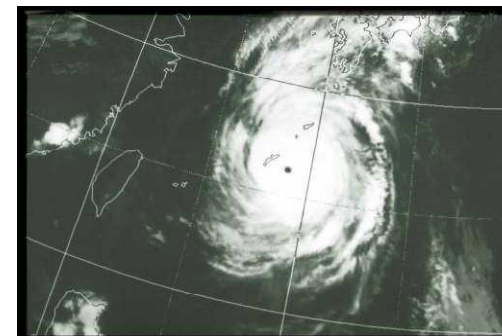
・ああ、おいしい。・なんてきれいなんだろう。

命令する文・たずねる文・感動を表す文②

文の終わ리카たに気をつけて、どのようなことを言っている文か、考えましょう。

- ・ ああ、きれいだなあ。 感動を表す文
- ・ 春のひざしは、とてもあたたかい。 ふつうの文
- ・ 早く行きなさい。 命令する文
- ・ 今、何時ですか。 たずねる文

つなぎ言葉①



つなぎ言葉には、いろいろな働きがあります。

★ 前後のことがらを順じょよくつなげる「だから」のなかま
それで　そこで　すると　したがって

- ・ 台風が近づいている。したがって、船は出ない。

★ 反対のことがらをつなげる「しかし」のなかま
けれども　でも　だが　ところが

- ・ 台風が近づいている。だが、この船はだいじょうぶだ。

★ 前後のことがらを並べ^{なら}る「ならびに」のなかま
また　および　そして

- ・ 台風は大雨ならびにぼう風をとמוなう。

つなぎ言葉②

いろいろな種類のつなぎ言葉を覚えましょう。

★ あとのことがらをつけくわえる「しかも」のなかま

それに そのうえ なお それから

- ・ 国語は苦手だ。そのうえ算数も苦手だ。

★ 前後のことがらのどちらかを選ぶ「または」のなかま

それとも あるいは

- ・ 国語を勉強しようか、それとも算数を勉強しようか。

★ 説明をつけくわえたりする「なぜなら」のなかま

つまり ただし もっとも すなわち

- ・ ぼくは勉強はきらいだ。ただし算数は少し好きだ。

敬語 ①

話をしたり文章を書いたりするときに、話し相手や、話題の中に出てくる人などに対して、尊敬そんけいの気持ちを表すために、必要おうに応じてていねいな言葉づかいをします。これを敬語けいごといいます。

敬語けいごには、

- ・ 相手や相手の動作などをうやまう言いかた
- ・ 自分の動作をへりくだることによって、相手をうやまう言いかた
- ・ 終わりに「です」や「ます」などをつけて、話全体をていねいにする言いかた

の三種類があります。

敬語 ②

三種類の敬語^{けいご}のちがいを覚えましょう。

★ 話し相手や、話題の中に出てくる人をうやまう言いかた。

- ・ 言う—おっしゃる
- ・ 行く、来る、いる—いらっしゃる
- ・ する—なさる
- ・ 読む—お読みになる、読まれる

★ 自分の動作をへりくだって、相手をうやまう言いかた。

- ・ 言う—申す
- ・ 行く、来る—まいる
- ・ 行く、聞く—うかがう
- ・ 食べる、もらう—いただく
- ・ 会う—お目にかかる、お会いする

★ 話全体をていねいにする、あらたまった言いかた。

- ・ 文末に、「です・ます・ございます」などを使う。
- ・ 「お」「ご」をつけて、ていねいにする。…ごはん・お料理

敬語 ③

正しい敬語^{けいご}を使えるようにしましょう。

★ ぼくのお父さんが… (×) ぼくの父が… (○)

- ・ 自分の父母のことを他人に話すときは、
父・母（兄・姉など）と言うのがふつうです。

★ 父は家にいらっしゃいます。(×) 父は家におります。(○)

- ・ 「いらっしゃる」は、相手をうやまうときに使います。
自分の家族など、相手より目下の人の動作には使いません。

★ お手紙をくれました。(×) お手紙をくださいました。(○)

- ・ 相手の動作に対して尊敬^{そんけい}(そんけい)の意を表さなくてははいけません。

敬語 ④

だれの動作かに気をつけながら、ふつうの言いかたを敬語^{けいご}に直してみましょう。

- ・先生に旅行のおみやげをやる。 — さしあげる
- ・となりの家からりんごをもらった。 — いただいた
- ・先生の言うことは正しい。 — おっしゃる
- ・あなたも行くのですか。 — いらっしゃる
- ・ぼくの父は、四十才だ。 — 四十才です